

シビル CCRC ヴィレッジを創ろう！

「南房総 CCRC 事業研究会」発足のお知らせ

シンクタンクチーム座長 三井 元子



CNCP シンクタンクチームは、かねてから地方創生事業に参画すべく検討を続けてまいりました。その成果として、この度「南房総 CCRC 事業研究会」を発足させることになりましたので、お知らせすると共に研究会会員を募集します。

この研究会は、首都圏に住む多くのシビル系技術者の企画・構想による CCRC 建設を実現させることを目標としています。適地として温暖で、首都圏からも近く、建設コストの低い南房総地域を考えています。

日本版 CCRC (Continuing Care Retirement Community) は、「日本版 CCRC 構想有識者会議」から 2015 年 12 月に最終報告が取りまとめられ、以下の様に定義されました。

「生涯活躍のまち」構想

「東京圏をはじめとする高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくり」を目指すもの

意 義

- ① 高齢者の希望の実現
- ② 地方へのひとの流れの推進
- ③ 東京圏の高齢化問題への対応、の3点

私は、ドボジョ(土木系女子)ではありませんが、シンクタンクチームの皆さんの議論を聞いていて、夢が膨らみました。既に各地で CCRC 構想に基づいたヴィレッジが作られつつあるようですが、シビル系技術者が、自らが住む立場になって企画した CCRC ヴィレッジとはどのようなものになるのでしょうか？

南房総の温暖な気候を生かした植栽や景観。高齢者が移動しやすい建物配置。収益をもたらすプラスエネルギー住宅。スポーツ施設や菜園もあるといい。そのコミュニティーでは、地域の若年層に向けて土木技術講演会や研修会を開き、進学や就職の手伝いをするのもいい。公共事業のプラス面を伝える広報活動の拠点となれないか。小中学生を集めた学習塾などを運営し、地域に貢献できたら良いと色々なアイデアが飛び交います。

退職後も資格や業務経験を活用し、仕事をしながら健康寿命を伸ばし、万一介護が必要な健康状態になった場合にも、新たな介護施設へ移る必要がなく経済的負担が少ない CCRC 構想に基づく施設で生活を始めれば、老後生活に多様な選択肢が得られ、多くのメリットが生まれるでしょう。

CCRC 構想の実現にあたっては、計画立案、資金調達、事業主体の設立、適地の選定、用地取得、施設的设计、建設、入居者の募集、施設完成、運営など多くの局面があり、それぞれの段階で異業種である不動産、金融、医療、介護事業者さらに地方公共団体との連携・協力が必要であり、それなくして CCRC 構想の実現はあり得ません。そしてこれらの連携・協力のとりまとめ、推進役として公共事業実施に長い経験を有する CNCP 会員が最適であると考えております。近日中に会員およびサポーターに研究会(フェーズⅠ)の募集要項を事務局から配信致します。是非とも本研究会に参画頂き、理想の CCRC 構想の実現に共に取り組みましょう。